

平成 28 年度 焼津市地域公共交通市民分科会 会議録	開 催	日時 平成 28 年 12 月 21 日 (水) 午後 2 時～3 時 40 分	
		場 所	焼津公民館 会議室 3
議題	(1) 市内バス路線の利用状況について (2) 平成 29 年度自主運行バス運行計画について (3) 平成 29 年度路線バス単独継続困難路線の対応について		
出席委員 10 名	(委員) 委員 鈴木 稔 (焼津市自治会連合会) 委員 田中 俊夫 (焼津市自治会連合会) 委員 河合 敏雄 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 小泉 浩 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 鈴木 春子 (焼津市民生委員児童委員協議会) 委員 山田 敏晴 (焼津市身体障害者福祉協会) 委員 齋藤 智美 (焼津商工会議所) 委員 谷澤 真奈美 (大井川商工会) 委員 渡辺 達樹 (焼津青年会議所) 委員 原川 二三四 (公募)		
議事内容			
議事	(1) 市内バス路線の利用状況について ○自主運行バスの利用状況は、ここ数年ほぼ横ばい。H27 年度は利用者数、収入ともに過去最多であったが、大井川西部循環線は H24 の運行開始以来、減少傾向が続いている。運行経費は年々増加しており、H27 年度は 1 億 2,278 万円。市の実質負担額（運行経費－運賃収入－国・県補助）は約 6,500 万円 ○路線バスの利用者数は、焼津大島線は増加傾向。五十海大住線、藤枝吉永線、藤枝相良線は維持・微増傾向。焼津岡部線、一色和田浜線は減少傾向。路線バスに対する市の補助額は、全体で 6,000 万円。特に一色和田浜線は 1 路線で 5,000 万円以上と突出している。焼津大島線を除く 5 路線に補助。 ○H28 年度（4～10 月）自主運行バス利用状況は、H27 年度より減少しているが、H26 年度程度を維持。焼津循環線は、利用者数の減少幅（-4%）に比べ、運賃の減少幅（-1.9%）小さく、平日に割引運賃（100 円）で利用している方の割合が減ったと推測。曜日別では日祝は増加しているが、平日が減少。バス停別では、焼津駅前が 1 日あたり 8.8 人、総合福祉会館で 3.3 人減少している。大井川焼津線は、H27 年度までは増加していたが、H28 年度は減少。曜日別では、土曜日以外は全て減少。バス停別では、大井川庁舎～市立病院の利用が 1 日あたり 5.6 人減少。大井川西部循環線は、H28 年度より土日祝運休したが想定より影響は小さい。1 日あたりの利用者数は 11 人増。曜日別では水曜日以外は増加。バス停別では 6 割以上のバス停で 1 日あたりの利用者数が増えた。 ○H28 年度（4～10 月）路線バス利用状況は、路線全体では前年度並み。焼津大島線、藤枝吉永線、藤枝相良線は増加傾向。一色和田浜線、焼津岡部線、五十海大住線が減少。特に焼津岡部線の減少幅（-7.5%）が大きい。 （以上、事務局説明）  ○大井川西部循環線の土日祝運休について苦情などはないのか。（山田委員） ⇒土日祝運休について、土日祝のミュージコでのイベントに利用できなくなったとのことのご意見があった。なお、運休については利用者への聞き取り調査で代		

替手段があることを確認し、地元への事前説明もしたうえで実施をした。(事務局)

○焼津地区から清流館高校へ行くバス路線がないという意見があるが、そのような路線を運行することはできないのか。また、高齢者のバス利用が多いのであれば、高齢化が進む中で需要は増えていくと思われるため、バス路線を充実したほうが良いと思う。(鈴木稔委員)

⇒清流館高校へのバス路線については、ジャストラインとの協議が必要となる。自主運行バスの利用者は高齢者が中心であることは確かである。今後の市全体の路線再編の計画を策定する際にはそういった面も含めて検討していく。(事務局)

○大井川地区の方は駅も病院も藤枝が近く便利であるため、焼津方面へ行く方は少ない。焼津市内の縦の連携(焼津地区⇔大井川地区)が弱いため焼津地区への移動が少ないのではないかと。焼津大島線を大井川庁舎へ延ばすことで、移動が増えるのではないかと。また、1日乗車券などで市内を巡る企画などをたて、利用者を増やしていくことも必要かと思う。(山田委員)

⇒焼津大島線の延長についてはこれまで検討はしてきたが実現していない。今後の計画の中で検討していく。1日乗車券については、他の地区で事業者が実施しているが、焼津市内での実施については難しいと思われる。今後、自主運行バスについては、利用促進として無料デーなどの実施も考えていきたい。65歳以上の方はジャストラインの「大御所パス」という高齢者用のフリー定期券があり、自主運行バスにも使える。(事務局)

○大井川南部の地区は藤枝駅の方が近いため、焼津駅までの路線があっても利用は見込めないと思う。(田中委員)

## (2)平成29年度自主運行バス運行計画について

○自主運行バスについては、概ね現行通りとする。焼津循環線、大井川焼津線は経路は現行通りとし、時刻については、発着時刻の定時性確保のため微調整を考えている。大井川西部循環線は経路、時刻ともに現行通り。藤枝駅善左衛門線は現行通り(若干の時刻変更あるとの事)。下根方地区デマンド型乗合タクシーは9月末まで実験運行継続(利用状況を検証)。来年度計画策定予定の地域公共交通網形成計画で、市全体のバス路線の運行を見直していく。利用促進事業については引続き実施していく。

## (3)平成29年度路線バス単独継続困難路線の対応について

○民間路線バス事業者が行政に対し、事業者単独では路線の維持が困難である旨を申出している路線(焼津大島線を除く5路線14系統)について、いずれの路線も通勤、通学、通院、買い物など市民生活に必要な不可欠であり、運行事業者が路線維持を前提とした収支改善策及び利用促進策を実施していることから、生活交通路線として市が欠損額を補助し、運行事業者と協議・調整をしながら収支改善を図り、市民の移動手段の確保と補助額の抑制に努める。

(以上、事務局説明)

○利用者増に努めてほしい。観光地などを巡る路線などルートの変更も必要かと思う。(鈴木稔委員)

- 自主運行バスは朝乗っているが、それ以外は乗っていない。自治会でもバス利用のお願いをしている。(田中委員)
  - 普段は車を運転するためバスを利用することは少ないが、お酒の席に向かう際には便利であった。(河合委員)
  - 上泉から藤枝駅に行くバスを検討してほしい。(小泉委員)
  - 民生委員として協力できることがあれば声をかけてほしい。これから高齢者の方などバス停まで歩いていくことが大変な方も増えてくると思うので、家の近くまで来てくれる公共交通ができれば助かると思う。バス停の時刻表をもう少しわかり易くしてもらえれば利用しやすくなるのでは。(鈴木春子委員)
  - これからは障害者だけでなく高齢者の方も車イスを使う方が増えてくると思われるため、車イスでの乗車がもっとスムーズにできる車両の導入を将来的には検討してほしい。(山田委員)
  - 焼津大島線を大井川地区まで延ばしてもらえれば通勤で利用することもできる。大井川地区との連携を強化し、焼津市全体を盛り上げることにつながるような、わかり易いバス路線に変えていってはどうか。(齋藤委員)
  - 大井川地区のイベントなどで、焼津駅からの移動手段にバスが利用できないことが多く案内に困る。踊夏祭や大井川港朝市、ミュージコでのイベントで利用できる臨時便を運行することも検討してはどうか。(谷澤委員)
  - 以前実施した理想のまちづくりに関するアンケート調査でも、利用しやすい公共交通は重要なポイントとなっていた。ラッピングバス等乗ること自体が楽しく、目的となるような働きかけも考えていく必要があるのでは。商店街と協力し、バスでの買い物客に割引サービスをしたりすることも有効と思われる。情報発信を工夫して、利用者にわかり易い案内を考えてほしい。(渡辺委員)
  - イベント時の臨時バス運行を検討してほしい。藤枝の支援学校の生徒が自主運行バスをクリスマスのラッピングをして運行している報道をみたが、そういったことも検討してはどうか。(原川委員)
- ⇒今回いただいた利用促進などのご意見は、地域公共交通会議に報告させていただきます。(事務局)